

[6] 高原町小体連 (学校数 4校 429名)

## I 年間事業

期 日	回	内 容
6月24日(木)	第1回	役員選出、規約確認、年間計画の確認 水泳記録会計画案検討
9月 2日(木)	第2回	陸上大会計画案検討
10月 5日(火) 19日(火)	第3回	陸上大会実施
2月	第4回	本年度の取組のまとめ、次年度への引き継ぎ、会計報告等

## II 事業部のあゆみ

1 水泳大会 → 中止 (各校での記録会)

2 陸上大会

(1) 大会名 令和3年高原町小学校体育連盟陸上大会

(2) 実施日 令和3年10月 5日(火)～高原小

10月19日(火)～広原小・後川内小・狭野小の3校

(3) 会 場 高原町立高原小学校運動場

(4) 出場者 高原町内小学校5・6年生児童(延べ人数 約100名)

(5) 実施種目

- ・ 一般走100m(5・6年生男女)
- ・ 選抜走100m(5・6年生男女)
- ・ 800m走(5・6年生女子)
- ・ 1000m走(5・6年生男子)
- ・ 400mリレー(5・6年生混合男女)
- ・ 走り幅跳び(5・6年生男女)
- ・ ソフトボール投げ(5・6年生男女)

(6) 競技方法

- 出場は、1人1種目まで参加可能とする。また、リレーに出場する場合のみ、2種目まで出場できるものとする。
- 競技は、学年別、男女別に実施する。ただし、リレーは、5・6年合同、男女別で行う。
- 競技規則は、県小体連競技規則に準じ、細部については町小体連で定める。

(7) 日 程

競技開始 8:30 競技終了 11:30

(8) 表 彰

- 各種目3位まで表彰し、参加者全員に記録証を授与する。

(9) 反 省

- 感染症予防のため、高原小と他3校とで日程を分けて実施した。高原町内の小学校で100mがとれるのは、高原小だけなので、3校での大会も高原小の運動場で実施した。3校で実施した大会では役員数が少なかったが、選手数も少ないため、競技を一つ一つ順に実施し、時間内に競技を終えることができた。
- 運動会の時期が延期となり10月になったので、練習、準備等の負担が大きくなった。

### Ⅲ 研究部のあゆみ

#### 1 研究主題・副題

「運動の楽しさに触れ、進んで体力の向上に取り組もうとする児童の育成」  
～「感じる」「気づく」を実感できる体づくり運動領域の指導を通して～

#### 2 主題設定の理由

体育科における学習は、「動きの獲得」や「体力の向上」ととらえられてきている。体力を高め、運動能力を向上させることが優先され、この数値が高ければ運動によく関わっているとされている。また、スポーツ少年団等の過度な勝利への熱の高まりは、より一層「運動に興味を持ち、活発に運動する者とそうでない者の二極化」を拡大させているといえる。

本町もスポーツ少年団活動が盛んで、特に野球やサッカー、バレーボール等が好成績を修めている。反面、スポーツ少年団に所属していない児童と所属している児童の体力面での格差は大きく、全体的に体力が低下してきている一因とも言える。

本町は4つの小学校があるが、中心校である高原小学校を除き、他の3つの小学校は複式学級を有する小規模校である。そのため、昨年度から学校規模に関係なく、児童一人一人が無理なく体を動かし、運動する楽しさや目標を達成できたときの喜びを味わわせるために、「体づくり運動」領域の研究を進めることとした。この研究を進めることが本町の実態に最も有効であると考え、本主題を設定した。

#### 3 研究仮説

##### 【仮説1】

体づくり運動領域の授業において、児童の発達段階に応じて指導内容を明確にし、適切に場の設定を工夫すれば、児童は体を動かす楽しさや心地よさを「感じる」ことができ、進んで日常的に体力向上に取り組む児童の育成に資することができるであろう。

##### 【仮説2】

体づくり運動領域の授業において友達との関わり合いを大切にした学習指導の工夫・改善を行えば、児童は自分や友だちの体の状態や運動の特性に「気づく」ことができ、進んで日常的に体力向上に取り組む児童の育成に資することができるであろう。

#### 4 研究内容

- 発達段階に応じた指導内容の明確化

#### 5 研究の実際

##### (1) 各学校の実践

- ア 発達段階に応じた指導内容の発達段階に応じた指導内容の明確化について

単元名	体作りの運動
学年	1・2年
体ほぐしの運動・多様な動きを作る運動	
○ 本単元は第1・2学年10人で実施した。	

○ 1・2年生10人は、とても活発であるが瞬発力や柔軟性、持久力などに課題があることから、楽しみながら「瞬発力・柔軟性・持久力」を身に付けるための運動を取り入れた。10人という少人数のため、ペアではなく、個人や2グループに分け、競争意識も持たせた。導入で「音楽」を使って、リズム運動や様々なタイプの走を取り入れることで、楽しみながら体力の向上をねらった。

【走を楽しもう】

- ケンケン走 ○ 両足ジャンプ走
- 横向き走 ○ ボールはさみ走
- おじゃみバトン走



【けんけん走・横跳び走】

	学習内容及び学習活動	児童の様子
導入	1 体作りの運動 ○ リズム運動 ○ 反復横跳び ○ じゃんけん列車 ○ リズム上体起こし	○ 体力テストの結果から、本校児童に必要な体力向上のための運動も取り入れながら「体作りの運動」を行った。
展開	2 多彩な動きをつくる運動遊び あめて1 すばやくダッシュしよう。 めあて2 ターンもすばやくしよう	○ ケンケン走 ○ 両足ジャンプ走 ○ 横向き走 ○ ミニリレー  素早くスタートし、同じペースを保ちながらゴールする運動であるが、児童は徐々にペースを掴み、上手になってきた。 児童同士励ましたり、こつを教え合ったりする姿も見られた。
終末	3 整理運動をする。 上手にできたことを発表する。	

発達段階に応じた指導内容の明確化について

単元名 体作りの運動・巧みな動きを身に付ける運動	
学年	1・2年
巧みな動きを身に付ける運動・ ○ 本単元は第1・2学年10人で実施した。	

○ 「巧みな動き」を身に付ける運動では、体育館にコースを作り、その中に様々な運動の要素を取り入れたポイントを設けて行った。

- |               |            |
|---------------|------------|
| ○ ミニ跳び箱       | ○ ジクザクけんけん |
| ○ 平均台         | ○ ミニハードル   |
| ○ 大型マット（高跳び用） |            |



【平均台】

	学習内容及び学習活動	児童の様子
導入	1 体力作りの運動 ○ リズム運動 ○ 腹筋運動 ○ リズム上体起こし	○ 体力テストの結果から、本校児童に必要な体力向上のための運動も取り入れながら「体作りの運動」を行った。
展開	2 多彩な動きをつくる運動遊び あめて ① ていねいにクリアしよう ② ていねいに、はやくクリアしよう	○ 5つのポイントの中で、一番経験が少ないのが、「平均台」である。初めは慎重さが目立っていたが、回数が多くなるにつれてバランスよく渡る児童も多くなった。 ○ 走る・跳ぶ・素早く動く・バランスを取るなどいろいろな要素が入っているため、児童は楽しみながら運動することができた。
終末	3 整理運動をする。 上手にできたことを発表する。	

成果・・・○ 課題・・・●

- 少人数で、普段「競い合うこと」が少ないが、今回の運動を通して、「どうしたら速くなり、勝つことができるか」という意識をもつことができた。
- 複式学級であるため、1年と2年（スポーツ経験あり）で、児童によっては大きな体力差もあり、今後は運動内容や競争の仕方にも工夫が必要である。

## 6 研究の成果と課題 成果…○ 課題…●

- 発達段階に応じた指導内容を明確にし、それぞれの場面で声かけやアドバイスをしたり、称賛したりすることで、体を動かす楽しさや心地よさを感じさせることができた。
- お互いのがんばりを認め合ったり、こつを教え合ったりすることで、友達との関わり合いを大切にし、お互いの体の状態や運動の特性に気付かせながら活動させることができた。
- 高原町全体で研究の成果を共有し、町全体で共通実践を行い、さらに研究を深めていきたい。